



梟は、品と木との会意字です。“木の上にたくさんの鳥がいて、口をそろえてさえずっている”ことを表わした字で、“噪(さわがしい)”の本字です。音は騒ソウの意味でソウです。

噪ソウは、口と梟との会意形声字で、音は梟ソウです。“さわぐ”“さわがしい”

という意味の字です。喧噪ケン、(やかましい)。蛙鳴蝉噪アメイゼン、(蛙も蝉も共に鳴き声がうるさいものです。役にも立たぬだけでうるさい文章や言論を軽蔑して言う時に使うことばです)。

譟ソウは、言と梟との会意形声字で、音は梟ソウです。“大勢の人が集まって

がやがやさわぐ”ことを言います。狂譟(狂ったようにさわぐ)。

躁は、足と梟との会意形声字です。“わいわい言いながらさわがしく歩き回る”ことを表わした字です。若い人たちの間にはやりのモンキーダンスなどは正にこの躁に当たります。狂躁(狂ったように騒ぎおどり回る)。

澡は、水と梟との会意形声字です。躁が若者のモンキーダンスなら、澡は奥様の井戸端会議です。昔は川端で奥様たちがペチャペチャ世間話をしながら洗濯をしたものですが、その様を“澡”と言ったのです“あらう”が本義です。澡洗。「澡室」はふろばの

ことです。

藻は、梟と水と草の会意形声字です。“絶えず水の中でゆらゆらと動いている草”という意味がすぐ推察できるでしょう。“水草”である“も”のことです。海藻。転じて、“詩文の美しい表現”→“美しい文章や詩”のことを言います。文藻。詞藻。

纛ソウは、糸と梟との会意形声字で、音は梟ソウです。糸を繭からとる時は、糸車がかがらがらと勢いよく音を立てて回るのでやかましいものです。そこで“糸をとる”ことを、纛で表わしたものです。このことを“糸をくる”と言うのは、糸を合わせるため、次から次へと新しい繭の糸口を拾って“くりこむ”ためです。

訓は「くる」と読みます。「繰くり越金」「繰くり上げ」など、多くは訓読みとして使われます。

操は、手と梟との会意形声字で、“手をせわしく動かす”という意味の字です。それは“手を巧みに使う”ということですから、“あやつる”ことになります。操作。体操。また、手仕事の意味から、“おこない”の意味で「操行」などの使い方が生まれ、また「節操」「貞操」などの使い方が生まれました。

慄は、心と梟との会意形声字です。意味は言わなくてもお分かりでしょう。“心がそわそわして落ちつきのない”ことです。